

「全鍍連」 2022年 7月号 巻頭言

全鍍連 環境副委員長 辻 克之 (株)太洋工作所 代表取締役社長)

「ピンチはチャンス？」



全鍍連・環境委員会の副委員長を仰せつかっている大阪府鍍金工業組合の辻でございます。コロナ禍が続く中、便利な Zoom の価値も感じつつも、皆様と直接お会いし情報交換できないもどかしさを感じながら 2 年半があつという間に過ぎてしまいました。ただ状況も進展し、大阪府鍍金工業組合も 3 年ぶりに総会と懇親会をホテルで催すことになりました(本原稿が総会前の提出なので状況報告は出来ませんが)。また私事ですがこの GW 中にタイへこれまた 2 年半ぶりに海外出張に行き弊社の工場並びに顧客訪問をしてきました。帰国時の 72 時間以内や到着時の PCR 検査の手間やリスクもありますが With コロナに向けて動き出しつつあると感じております。しかしながら、まだまだコロナ禍の影響は甚大で、足元では中国のゼロコロナ対策やロシアのウクライナ軍事進行、先を見れば地球温暖化対策での脱炭素化の流れ、複雑に絡み合った課題が山積し不透明感が漂っています。我々業界においても金属材料・エネルギーコストを筆頭にあらゆるものが値上がりし、半導体を始めとする供給制約による不安定な稼働、コロナ禍で拍車の掛かった人手不足と 3 重苦 4 重苦となって我々の経営に影響を与えています。弊社もお客様に値上げの願いをしつつ、そのコストに似合った品質・納期でサービス向上を目指し日夜頑張っております。今や本当に貴重で高価な材料やエネルギーまた人材を使い、不良を作っているのは値上げして頂いても何も残りません。またお客様の大事な生地を不良にしているのは信頼も失います。もう一度基本に戻り現場を 5S し人材育成をし、仕事のやり方をブラシアップする時期かと考えています。またこの状況はあらゆる業界が影響を受けています。めっきを無くす方向(弊社でも樹脂めっきは塗装や成形のみへ仕様変更が増えています)の流れもありますが、めっきで合理化すると言う流れも出てくるかと思えます。元々めっきは、餡子は安い材料を使って表面だけ必要な金属を付けて機能を持たす合理化技術です。めっきの素晴らしさを理解して頂き、めっきを使って貰えるように新たなお客様・需要を開拓する機会だと思えます。また環境においても貴重な材料を汲み出して経費を使って排水処理するのではなく、“一滴たりとも無駄にせずめっきに使う”・“なんでも回収する”をモットーに取り組んでいます。皆様方もすでに取り組んでおられる事ばかりかと思えますが、めっきが他の加工技術に負けない様に頑張ってください。最後に全鍍連・環境委員会で検討してきた新しい環境整備優良事業所認定制度が今年より始まります。各項目でのエビデンスなど以前とは提出書類も増えますが自社の環境整備の見直しにも有効かと思えますので、ご参画頂きたいと思えます。

それでは全鍍連活動にて皆様と直接お会いできる日が来ることを心待ちにしております。